

令和3年度 政務活動報告書（1）

会派又は議員名 _____ 公 明 _____

政務活動期間	令和3年4月5日～6日（2日間）
政務活動先	稚内市議会
政務活動参加者	秋 場 信 一（緑風会） 佐々木 常 子（公明）
政務活動項目	○議会へのタブレット導入の目的と現状について
政務活動項目に係る目的・結果等の概要・所見	<p>① 目的</p> <p>当議会においてペーパーレス等、ICT化を進めるにあたり、既にタブレットを導入されている稚内市議会に導入目的、経緯経過、操作、活用など研修をうける。</p> <p>② 結果等の概要</p> <p>タブレット導入までに、いろいろな事に取り組み、先行している3自治体を視察。</p> <p>平成28年3月全会一致でタブレット導入決定。平成29年11月タブレット導入後、初の常任委員会。12月初の定例会。タブレットの有効的な使用方法を現在も鋭意研究中。</p> <p>③ 所見</p> <p>導入までに数年要しており、視察も重ねており、簡単ではなかった。70代の議員のかたも始めは大変であったが今ではしっかり活用出来ていると聞き、やはり使っていく事が大事であると思った。現在も鋭意研究中との事で、出来る事から進めていくべきだと思った。</p>

令和3年度 政務活動報告書（2）

会派又は議員名 _____ 公 明 _____

政務活動期間	令和3年5月24日（1日間）
政務活動先	オンライン参加（ZOOM）
政務活動参加者	五十嵐 信 子（公明） 佐々木 常 子（公明）
政務活動項目	○マニフェスト大賞2021キックオフ研修会
政務活動項目に係る目的・結果等の概要・所見	別紙のとおり

令和3年度 政務活動報告書

公明 佐々木常子

政務活動期間 令和3年5月24日(月) 13:00-17:00 (1日間)

政務活動先 マニフェスト大賞2021キックオフ研修会(ZOOM)

政務活動参加者 五十嵐信子 佐々木常子

政務活動項目

講演1「議会から地方の変革を」

北川正恭 早稲田大学名誉教授/マニフェスト大賞審査委員長

講演2「市民による政策選択から実践までつなげるシステムづくり」

古川雅典 多治見市長

セッション1「生活者起点のマニフェストサイクルで地域を変えていく」

北川正恭 早稲田大学名誉教授/マニフェスト大賞審査委員

古川雅典 多治見市長

ファシリテーター川上文浩 ローカル・マニフェスト推進連盟

共同代表・可児市議会議員

事例報告1 「オンライン本会議の可能性を探る

～模擬本会議を実施した大津市議会からの報告～」

清水克士 大津市議会局長

事例報告2 「楽しみながら社会問題や政策の存在に気付く

『ゲーム限界都市』

東善郎 一般社団法人 Do It Yourself 代表理事

事例報告3 「『みんな de 議会』議会より一足先に予算を

市民と一緒に審査する」

前川和治 敦賀市議会議員

講演3 「議会改革から議会の“変革”へ」

中村健 早稲田大学マニフェスト研究所事務局長

事例報告4 「議会報告会のオンラインの活用や

他議会と連携した議会 BCP の改定」

澤野伸 可児市議会議長

事例報告5 「議長主催による初当選議員勉強会やオンラインへの道のり」

田中健 知立市議会前議長

セッション2 「“変革”に向けた議会のあり方」

澤野伸 岐阜県可児市議会議長

田中健 愛知県知立市議会前議長

清水克士 滋賀県大津市議会局長

ファシリテーター中村健 早稲田大学マニフェスト研究所事務局長

まとめ 北川正恭 早稲田大学名誉教授/マニフェスト大賞審査委員長

政務活動項目に係る目的・結果等の概要・所見

- ① 目的 「地方から日本を変える」「議会から地方を変える」取り組みや考え、先進事例などを学び、自分たちの出来る事、方向性を考える。
- ② 結果等の概要 人口減少、少子高齢化、社会保障、公共ユニバーサル、オンライン化、これからの日本を考えて方向性、取り組み例・多治見市、マニフェストサイクル(4年に一度)、討議・課題集⇒マニフェスト(誰でも参加)
当選⇒総合計画⇒実行シート(若い職員や女性の登用)
 - ・大津市、オンライン本会議(模擬)定期的な実践によるオンラインスキルの推進向上
 - ・みんな de 議会、議員に配られた予算書を即日公開
- ③ 所見 多治見市をはじめ、講演、事例報告など、市民の幸せを目的として、市民参加、職員参加の実現をはかっている。非常に参考になる事例ばかりだった。自身も 当別町においても、出来る事から進めていくべきではと感じた。

令和3年度 政務活動報告書（3）

会派又は議員名 公 明

政務活動期間	令和4年1月31日 (1日間)
政務活動先	ローカル・マニフェスト推進連盟 オンライン研修会
政務活動参加者	五十嵐 信子（1名）
政務活動項目	○オンライン議会最前線 実践と可能性
政務活動項目に係る（目的・結果等の概要・所見）	別紙のとおり

政務活動報告書

公明 五十嵐信子

政務活動期間 2022年01月31日(月)

政務活動先 ローカル・マニフェスト推進連盟 オンライン研修会
オンライン議会最前線 実践と可能性

政務活動参加者 五十嵐信子

政務活動項目 開会 (オンライン)

基調提起「DXとデモテックで地方から・議会から変えていけ」
北川正恭(早稲田大学名誉教授、早稲田大学マニフェスト研究所顧問)

基調講演「討論の広場と議事機関としての議会とオンライン」
廣瀬克哉(自治体議会改革フォーラム呼びかけ人代表、法政大学総長)

実践報告 取手市議会「デモテック前進！デジタルとオンラインで
議会がかわる」

齋藤久代(取手市議会議長)

岩崎弘宣(取手市議会事務局次長)

実践報告 大津市議会「コロナと非常事態に備える！オンライン本会
議実現へのミッションロードマップ」

清水克士(大津市議会局長)

実践報告 知立市議会「もっと市民に開いていく！議会DXの推進で
チャンスロスをなくせ」

中野智基(知立市議会議長)

田中 健(知立市議会議員・議会DX推進PT座長)

休憩

ディスカッション

コーディネーター：廣瀬克哉(自治体議会改革フォーラム呼びかけ人
代表、法政大学総長)

登壇者：中野智基(知立市議会議長)
田中 健(知立市議会議員・議会 DX 推進 PT 座長)
清水克士(大津市議会局長)
齋藤久代(取手市議会議長)
岩崎弘宣(取手市議会事務局次長)

提起・総括

北川正恭(早稲田大学名誉教授、早稲田大学マニフェスト研究所顧問)

閉会(研修会終了)

終了後、参加者からの質問に登壇者が答える QA タイム

*今、議会が問われる本気の危機管理について、ローカル・マニフェスト推進連盟の合言葉でもある TPP（徹底的にパクろう）自分たちもやっ払いこう！地方から議会を変えていこうと、3市議会の実践例を学ぶ。

初めに、法政大学廣瀬克哉総長の基調講演ではコロナ下でも議会活動ができなくなることはどうやらなさそうだと安心してしまっていないか？と、議会の危機管理能力の低さについての指摘があった。

本当に議場に集まれなくなった時のことを、本気で想定して備えているだろうか？今回のコロナ禍は最後の感染症危機ではない《次》はもっと深刻で、議場に集合することが全くできないかもしれない。それにも備えられる用意をすることこそ危機管理であり、今出来ない組織がいざというときになってから対応できるのだろうか？との問題提起をされる。そして、耳の痛い話ではあったが不慣れは理由にならないということ。

実践しなければ慣れる機会もないので、施行するには今が条件の良い時期なのではないかということ。

実践報告では、取手市議会議長がR2・4月の緊急事態宣言時、議会で集まれないと悩んでいた時、次長より「できます！！」との力強い後押しにより議長の決断で zoom を用いることになったとのこと。サイドブックを導入し、当初はペーパーレスは内心大きな不安だったようですが前を向いて進むことによりメモもとれ、アンダーラインもひけるようになり、書類も全部捨て、部屋も片付きました！！と話されていたこと、また、「議論が仕事」「議場に行かないとできないではなく、ありとあらゆるところで議論するのが議会だ」との次長の言葉がとても印象的でした。慣れるまでには苦労もあるかと思いますが、議員活動にも大変役立つと思いました。

【オンライン視察！！受け入れています！！受けたところは皆、

やる気を出しています！！】

と、どこの議会も導入実現後のメリットが多いと話されており、当別町議会もオンライン視察の検討をしてほしいと思いました。